

アート鑑賞と鑑賞教育

—両者は同じであってはならない—

吉村浩一 法政大学文学部

真ん中に立って、ぐるりと見廻すと、
光の音楽で、身体がゆらめく様な感じがする。
これは自然の池ではない。誰もこんな池を見た事もないし、
これからも見る人はあるまい。私はモネの眼の中にいる、心の中にいる、
そして彼の告白を聞く。（小林秀雄『近代絵画』1958年）



理想の鑑賞教育

学校教育である

観察力→構成力→表現力
を養う



お茶会での茶碗鑑賞表現に 表れた茶碗の顯在的属性

顯在的属性 と 潜在的属性

- 顯在的属性とは、たとえば絵画の場合、絵に現れている形・色・大きさ・位置・方向など物理的に知覚可能な属性である。
- 潜在的属性とは、作品に対して抱く、目で直接見ることのできない印象やイメージ、感情などである(Marković & Radonjić, 2008)。

茶会での茶碗鑑賞でどのように現れるか？

- 2012年9月17日、大分市のコンパルホール2階茶室において、大分県立芸術文化短期大学茶道部お茶会が行われた。その機会を利用し、当日参加した茶道部の学生15名（全員女子）の協力を得て、データ収集を行った。

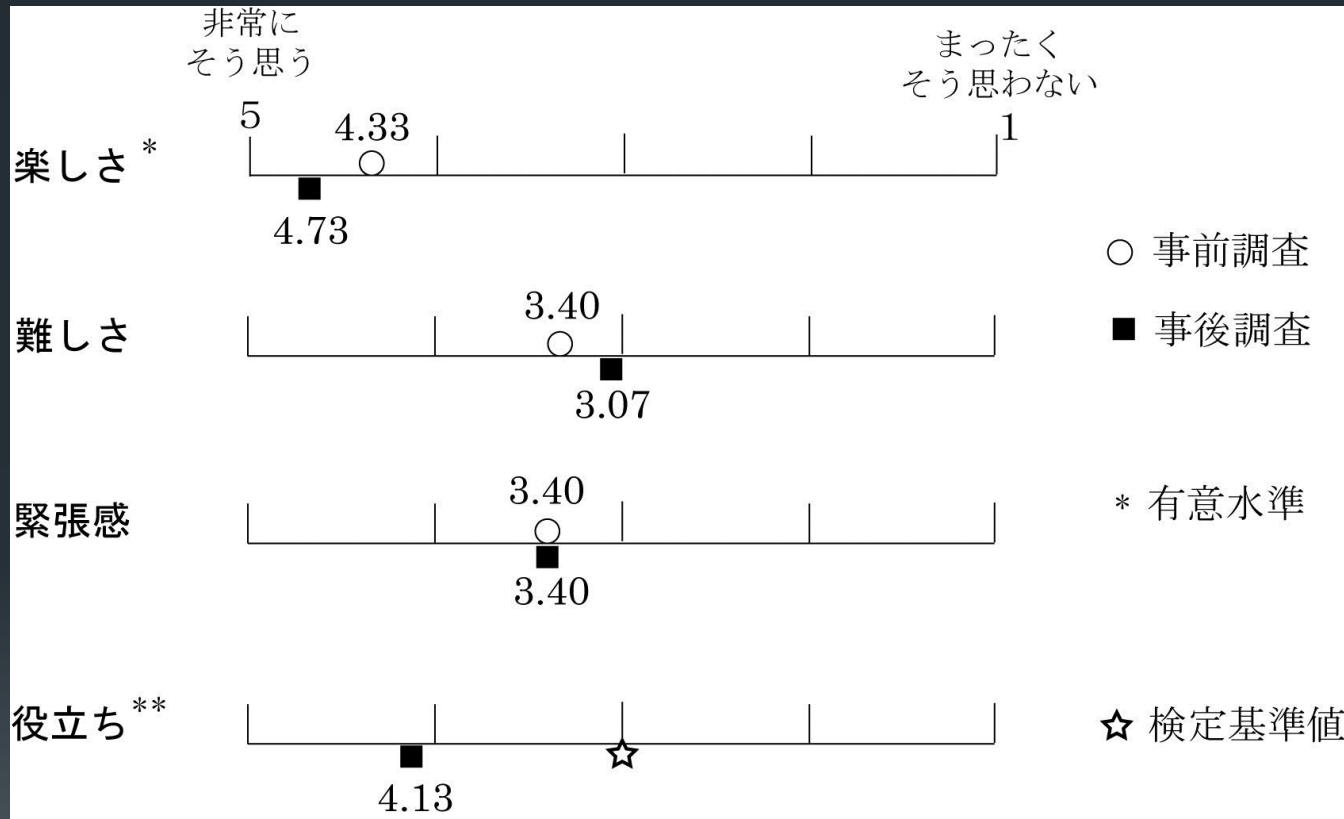
鑑賞文収集の手順

- 美術科の学生に5種類の茶碗制作依頼
- お茶会の席で、茶道部の学生に、自分が使った茶碗についての鑑賞発話を求め、音声録音した。

収集したデータ

- お茶会に参加した学生に、茶碗についての感想を語る前とあとに、「楽しそう」「難しそう」「緊張の程度」の3項目の心情評定をしてもらった(5点尺度)→15名の参加者の評定平均値を算出
- 15名の参加者の発話データ(全発言を文字化)

鑑賞発話前後の心情の比較



顕在的属性 + 潜在的属性 という一般式の支持

- 顕在的属性への言及は50箇所
- うち45箇所(9割)が「顕在的属性 + 潜在的属性」

鑑賞文例

飲む前から【ピンクの色が白に映えて】かわいいなと思っていたんですが、飲んだあとにお茶を飲むにつれて【だんだんピンクが現れてきて下の模様が見えた】のがすごいかわいくおもしろかったです。また、【手触りがすごく柔らかく滑らかで、どこを触っても、なんかぼこぼこという感じがあった】ので、持っていて安心感がありました。



潜在的属性表現は紋切り型

- 視覚に関して→35の表現に対し16種類

「かわいい」「偶然性と計画性」「おもしろい」「さわやか」「いい」「楽しい」「わくわくする」「違和感」「きれい」「すてき」「優しい」「好き」「マッチする(合う)」「重厚感(重々しい)」「緊張感」「かっこいい」

- 触覚・機能・技術に関して→11の表現に対して8種類

「安心感」「立てやすい」「攻撃的」「持ちやすい」「ぐらつく」「おもしろい」「よい」「違和感」

「顕在的属性」+「潜在的属性」 の具体例と問題点

- 具体例：通し番号7

「白とピンク系統の色で」+「すごくかわいらしいイメージ」

- 通し番号17

「白い色に深い藍色が」+「すごいきれい」

- 問題例：「顕在的属性」とした部分の中に潜在的属性が混入していると考えられる

通し番号16 「(青と)白とのバランスもすごいとれていて」+「すてきだ」



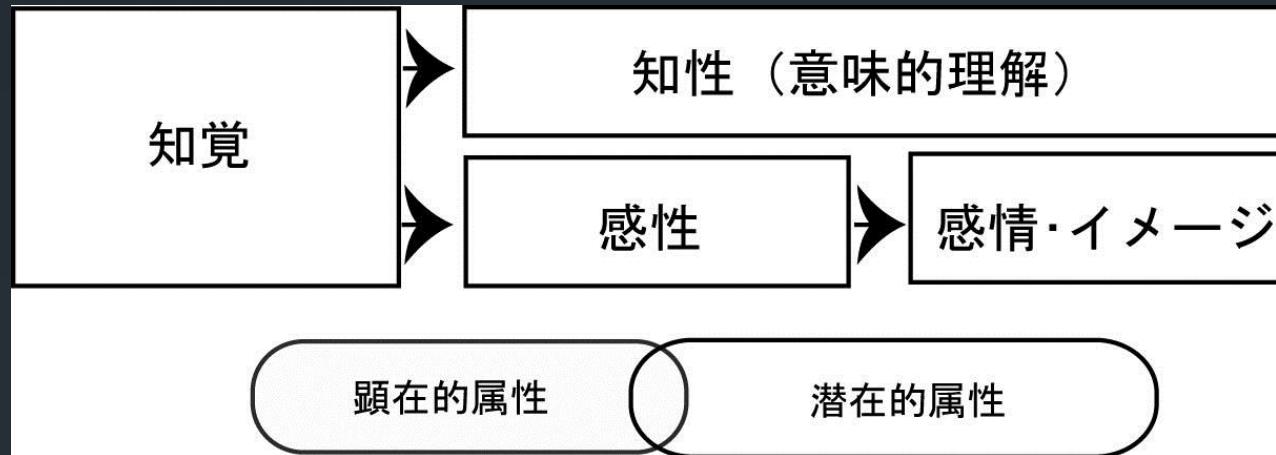
通し番号27 「飲み口のところのとろとろした釉薬の感じや表面のとがったところや丸いところの傷など、対比があって」+「非常におもしろいお茶碗だと思いました」



通し番号31 「色合いがすごく渋い感じで、落ち着いた色合いで」+「私は結構好きだなと思いました」



どのような鑑賞プロセス・モデルが考えられるか？

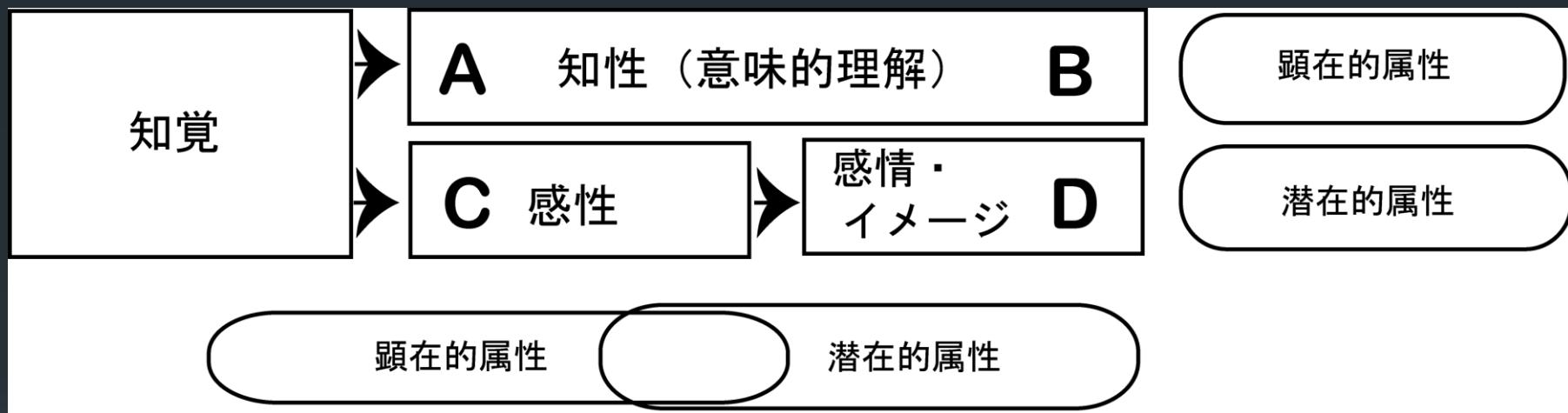


(a)



(b)

最終的な鑑賞プロセス・モデル



「顕在的属性」+「潜在的属性」とならなかつた5項目

- 2項目は「顕在的属性」+「背景情報」
- 残る3項目は、顕在的属性が単独で記述されており、いわば舌足らずの感想と言える。
その具体例
→【少し触り心地というのか、ざらざらしているというのがある】(参加者ID:12)

大学生ではこのような舌足らず表現は例外的だが、小中学生では頻出すると思われる。

アンケートでの 回答者の属性記入記号

- 1. 幼稚園
 - 2. 小学校
 - 3. 中学校
 - 4. 高校
 - 5. 大学
 - 6. 美術館・博物館
 - 7. 教育委員会
 - 8. 上記以外の公務員
 - 9. 一般企業
 - 10. 主婦
 - 11. その他
- a. 美術担当
 - b. 音楽担当
 - c. 心理学
 - d. 教育学
 - e. 国語科担当
 - f. その他
- ア. 男性
 - イ. 女性